



新年は、何事にも真っ白な気持ちで望むことができます
今年何かをやりようと思っているひと
去年はあともう一步だったひと
まだ何も考えていないひと
それぞれが新しいスタートを切られることと思います
皆さんはどんな一年にしたいでしょうか

2008年は子年
十二支のはじまりです
ひととき新たな気持ちでいる方も多いことでしょう
よく占いなどでは
勤勉、儉約家、家庭的、しっかり者と評される
子年生まれの皆さんですが
当別の子年生まれの皆さんの場合はどうでしょう？
96歳、84歳、72歳、60歳、48歳、36歳、24歳、12歳を迎える
それぞれの今、これまで、そしてこれからを
年男・年女の方12通りの視点で聞かせていただきました



明治、大正、昭和から平成へ



浪岡 養之助さん

明治 45 年生まれ
若葉在住

先祖は父方が盛岡、母方が新潟の出で、当別で今まで暮らしています。この材木沢一帯は水田が広がっていたものだったけど、作物も変わって、この地域の景色も変わったね。材木沢と上り別の学校もあったしね。街中に出るのに、ずっと田んぼを通って行ったからね。ただ、昔から慣れ親しんでいた、この地域の地名「材木沢」が「若葉」に地名変更になったことは今でも寂しいね。札幌に狸小路という地名があるくらいだから、当別に材木沢という地名があってもいいような気がするけどね。

人生ではいろいろなことがあったからね。改めて振り返って、これが一番というような思い出は特に無いよ。ただ、戦争のあった時代がこれまでで一番苦しいときだったね。あの7年間は日本国民が皆難儀していたと思うよ。何か物が欲しいと思っても手に入れない、靴や衣類や糸などから、子どものミルクに至るまで、普通の暮らしで使うもの、ありとあらゆるものが何も手に入らなくて、大変な時代だったことが思い出されるね。

子どもは全部で6人、孫は10人、ひ孫は3人が生まれました。今は息子夫婦と一緒に暮らしているけれど、孫がたまに遊びに来た時に顔を見れるのが楽しみだね。あと、近ごろの楽しみはテレビで時代劇を見ることだね、三船敏郎の「大忠臣蔵」あれはおもしろいね。

健康の秘訣？何もないよ。ごはんも感謝しながら三食ちゃんとおいしく食べているね。嫌いな食べ物は無いけれど、ハムだとか、ハイカラな食べ物はあまり口にしないな。甘酒は好きだけど酒は昔から飲まなかったね。タバコもずいぶんと前にやめたよ。何か特別なものを食べているとか、体に気をつけてることは本当に無いね、静かに、目立たなく、のんびりと過ごして、やりたいことをやって来て、人に支配されないような暮らしをしてきたことは良かったね。それだけで長生できたと思うよ。妻と一緒に2人で助け合って来れたのも良かったね。

当別町のこれからは、特に何かを望むというわけではないけれど、町長にはしっかりとやってもらいたいと思うね。「がりっとやんなさいよ、浪岡のジジはまだまだ盛んだからね」



妻のハギノさん(大正4年生)と



当別での経験を活かして



山崎 ^{てるみ} 照弓さん

昭和 59 年生まれ
当別町出身
北海道医療大学卒業

現在 私は大学での活動を通して得たことや感じたことを活かそうと石狩市で障がい者に関わる仕事に就き、そこで生活をしています。

働き始めて 8 か月が過ぎようとしていますが、彼らと日々活動を共にすることで元気をもらい、自然に笑顔が出てきます。また、町外で生活を始めて、改めてその土地には土地の良さがあるなと感じています。これからは、障がいを持つ方も生き活きと生活できる社会になってほしいですね。

住 み慣れた当別町の魅力は、多くの自然があふれた地域（町内）同士の連携が強いところだと思います。それに、近所の人と声を掛け合うことができる人と人とのつながりがあり、人の温もりもあるまちだと感じますね。週末地元に戻ってくることで癒されています。

北 海道医療大学での学生生活では、ゆうゆう 24 に所属して障がいを持つ方を支えるボランティアや町民と一緒にイベントを通して地域を盛り上げる活動を行ってきました。そこでの経験は、自分自身を成長させ、今の自分を「頑張ろう！」という気持ちにさせてくれるように思います。ボランティア活動の中で当別町民の方々の協力を得てイベントを開催する経験は、ほかの地域や大学では無いと思います。

学生のときに残念だなんて思ったことは、当別の中心部に若者向けのお店がなく、札幌など近郊都市へのアクセスが不便なために学生が新琴似などに居住地を構えてしまうことです。

JR の便数を増やしたり、バス路線が整備されて交通の便が良くなると学生にとっても住みやすいまちになるのではないのでしょうか。



温かい家族と一緒に過ごす



大塚 幸子さん

大正 13 年生まれ
東裏在住

若 いときの苦勞はいまでも忘れられないですね。実家が酪農だったので、朝昼晩に牛の乳搾りをしていました。家の手伝いが大変だったので、学校も小学校までしか出ていません。だけど、人には負けたくないと一生懸命に生きてきました。

その時の経験で教育を受けさせるのは親の責任だと考えたので、子どもには将来の夢にそのような教育を受けさせるようにしましたね。

昭和 22 年に嫁いできたときは、このあたりは落葉の木が生い茂っていたんですよ。馬を使って切り株を抜く作業は、苦勞の連続でした。当時を知っている町民の方からは「あの土地を今のような畑にするなんて本当に大変だったね」って言われます。

孫 もみんな独立したから、今は趣味を楽しむ毎日です。私は本当に趣味をたくさんもっているんですよ。旅行、カラオケ、ゲートボール、手芸（写真のうちわは、自作のちぎり絵です）・・・中でも旅行は大好きです。一人旅で埼玉にいる娘に会いに行くことも多いですね。

字が読めて、耳が聞こえて会話ができればどこにでも行けるんですよ。わからないことがあっても、しっかり名前を付けている職員に聞けば大丈夫です。それと、やっぱり家族で仲がいいことが一番うれしいです。子どもが 3 人、孫が 8 人いるんですけど、みんなやさしく接してくれます。それに、子どもと孫は本当に仲良く話しています。

この年になって若い頃にした苦勞が報われている気がします。



当別で暮らそうと決めて

田村 直紀さん

昭和 47 年生まれ
航空自衛隊第 45 警戒群
美里在住



任務は、補給小隊に属しており、物品の調達、手配などの業務です。緊急時には休日や時間等関係なく対応することもあります。見えない所で国を守っているということでの使命感、やりがいがありますね。

平成 13 年から当別に住んでいます。勤務の都合で他のまちでも暮らしたこともあるし、これから転勤になる可能性もありますが、生活の場所として当別に帰って来ようと思っています。実家がある札幌市に近いこと、職場の仲間が住んでいたことなどもありましたが、当別に家を建てようと思った決め手は、この地で子どもが生まれたことですね。

育児面では、町に小児科、産婦人科といった専門医が無く、当初は不安に感じていましたが、最近は、安心して遊べる場所や地域であるとか、周りに友達がいるとか、子育てには医療面以外にもいろいろと大切なことがあることも感じています。

スポーツは昔から好きで、今も楽しみながら続けています。部隊内では銃剣道競技の代表選手として試合に出場しています。近くのゴルフ場もよく利用しますし、子どもが大きくなったので、そろそろスキーを教えに連れて行きたいですね。総合体育館の開放日があることも良いですね。当別はスポーツ面での環境は恵まれていると思います。



変わった風景と変わらない心

そうぜん 宗前 豊美さん

昭和 11 年生まれ
太美中央在住



昭和 29 年に当別に来てから、ずっと太美暮らし。出身は青森県、岩手との境にある階上町^{はしかみ}。農家の手伝いで、一緒に 8 人で太美に来たよ。でも皆途中で帰って、最後は自分ともう一人だけ。青森の方言で通じない言葉もあってね、外国に来たような感じだったよ。雪の深さ、寒さ、泥炭を燃やすような生活に驚いてね、来た当初は自分も若かったから「とてもこんな所では暮らせない、東京に行こう」と思ったもんだけど、不思議とそんな暮らしにも慣れたね、家を建て、家族も出来て、仕事も米屋や建設会社なんかで働いてね、今住んでいる家は当別に来てから建てた 3 軒目の家になるよ。

来た時は太美の景色は今とは全然違ったよ。麦とか大豆、畑作中心の農業でさ、だんだんと田んぼが出来はじめたのは昭和 34 年くらいだったかな。太美駅前にも旅館があってね、厚田から出て来た人たちが、1 日 3 ~ 4 本しか走っていない自動車に乗るための待合いに利用してたもんだよ。

最近はシルバー人材センターの仕事をやっていて、冬は除雪の仕事が多いね。一人暮らしのお年寄りから除雪を頼まれることもあるけれど、隣近所で助け合うのは昔は当たり前だったと思うね。今は近所の付き合いが薄れてしまった部分もあるね。でも、お互いが助け合う心無くしてはダメだと思うよ。



あったかい地域がいちばん

安藤 頼孝さん

昭和 35 年生まれ
安藤石油販売(株)
錦町在住



名 古屋から移住して来た曾祖父から数えて4代目、当別出身です。町外で電気関係の営業をしていた31歳の時に家業を継ぐために当別に帰って来て、約16年を数えますが、最近の石油業界を取り巻く環境は非常に厳しいですね。

子 どもの頃と今を比べると、当時の当別小学校は児童数が1000人を超えるマンモス校でした。また、中学生の時は、初めて岩出山(当別と姉妹都市交流を続けてきた宮城県大崎市岩出山)の生徒が修学旅行で当別に来た際、生徒会長として歓迎の挨拶をしたのを覚えています。その後も岩出山との縁は何かと多く、当別町130年の際には青年会議所の役員、

PTAの役員などとして、それぞれ歓迎する側で関わっていたのですが、まだ岩出山に行ったことが無いので、いつか行ってみたいと思っています。

最 近感じることは、昔はどここの地域にもいた、怖いおばあちゃんを見かけなくなったことです。以前は、悪いことをする子どもがいると、地域の大人たちが自分の子どものように叱ってくれました。私も顔見知りの近所の子どものように「元気か?」と自然に声をかけるようにしています。そんな簡単なことが、地域のつながりを維持し、非行防止にも役立つと思います。これからはアットホームな、あったかいまちづくりが地域の一番重要な課題になるのではないのでしょうか。



農業者として、母として

河野 房子さん

昭和 23 年生まれ
農業
東蕨岱在住



風 が強くて強くて、まあびっくりした、というのが上川管内の剣淵町から嫁いで当別に来たときの最初の印象です。今でも当別に来た人で「風が強いね」という人がいるけれど、こんなものじゃないくらい風が強かったですね、田んぼのあぜぶちに立ってられないくらい強い風が吹くこともありましたよ。

当 時、昭和45年頃まで作物は米一本でしたが、減反政策による転作が始まってからは畑作へと変わって来ましたね、今は麦、小豆、大豆、ビートを生産しています。うちも娘が三人で皆嫁いでしまって夫婦2人で営農していますが、ここの地域だけでなく、農業の後継者不足は大きな問題だと思いますね。

蕨 岱の学校の跡地の近くを通ったときに「もう学校は無いんだな」と、ふと寂しい気持ちになりますね。娘たちが通学していた時は、育児と農業で大忙しだったけれど、皆がそんな暮らしたから、当時は特に苦労だとは思いませんでしたよ、地域で何かをするときにもお互いが助け合っていて、いちばん活気があった時期でしたね。

今 は農作業の合間に、同じJA北石狩女性部の仲間と交流をすることや、温泉に旅行に出かけることが楽しみです。これからも、体が続くかぎりには農業を続けて行きたいと思っています。



小学生もいろいろたいへん



照井 大海くん
ひろみ
平成8年生まれ
西当別小学校6年



小ケ口 友里さん
こけぐち ゆり
平成8年生まれ
西当別小学校6年



矢野 瑞希さん
みずき
平成8年生まれ
西当別小学校6年

今 興味があることや、
これからの目標は何ですか

照井くん

春から中学校に行ったら、兄もやっていた陸上をやりたい、種目はジャベリックスロー（やり投げ）に挑戦してみたい。できれば将来も陸上を続けて行ければ良いと思っています。

小ケ口さん

今はバスケットボールをがんばっています。将来の目標はパティシエになっておいしいお菓子をつくりたい。たまに家ではご飯仕度の手伝いをすることもあります。

矢野さん

小さい頃から始めた油絵、好きな歌を弾いてみたくて始めたギター、ダンスを楽しんで習っています。

当別 の子どもの
特徴は？

小ケ口さん

バスケットボールの試合で他の町のチームと試合をする時に感じることは、当別の選手は、まず、あいさつの声が大きい。他の町の子どもよりも元気な感じがします。

照井くん

男子よりも女子の方が、学校のクラスの中では強いところもあります。

学 校生活について
教えてください

矢野さん 今の学年は明

るいクラスが多くて、授業中はわりとまじめだけれど、休み時間は元気です。

先生はいろいろなタイプがいるけれど、おもしろい先生は人気があります。

小ケ口さん

私は体育は得意、でも、算数の授業は微妙。みんなが学校の中で一番楽しみにしているのは給食の時間だと思います。

他 の町と比べたり、当別に住んでいて感じることはありますか？

小ケ口さん

食べ物が美味しいこと、自然があることはいいことだと思う。でも、あまり人が遊んでいないような公園はムダのように思います。

矢野さん

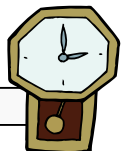
買い物や遊びに行くときは、札幌の大きな店に行くこともあるけれど、人ごみの中に長時間いることはあまり好きじゃありません。

照井くん

遊び場や、自然は今の当別のままでもいい。でも、大きいスーパーがあればいいなと思う時もある。将来のことはまだわからないけれど、やっぱり都会に住んでみたいような気もします。

【子年生まれの方の誕生年に起きたおもな出来事】

年 度	■当別町関係	■町外関係
明治 45 年 (1912 年)	三番川駅通設置	年号が明治から大正に変わる
大正 13 年 (1924 年)	札幌土木事務所出張所設置	メートル法実施
昭和 11 年 (1936 年)	川下・青山奥で水害が発生	二・二六事件勃発
昭和 23 年 (1948 年)	当別町警察署発足	東京裁判結審
昭和 35 年 (1960 年)	茂平沢橋竣工	日本でカラーテレビ放送がスタート
昭和 47 年 (1972 年)	札幌オリンピック聖火リレーに当別隊が参加	上野動物園にパンダのランラン、カンカン来園
昭和 59 年 (1984 年)	とうべつファミリー農園開園	日本の平均寿命が男女とも世界一に
平成 8 年 (1996 年)	学校給食がスタート	渡辺淳一「失楽園」がベストセラー





もっと元気な当別に



山本 ^{ともこ} 智子さん
昭和47年生まれ
主婦
獅子内在住

大阪 生まれの大阪育ち、4年前から当別に来ました。こっちに来た当初の頃は、北海道の人と大阪の人とは、気質や性格でちょっと違う部分もあるので、最初は戸惑いました。今はすっかり慣れ、北海道人の夫に漫才の、ノリツッコミの方法を教えています。

冬 になると、雪がものすごくたくさん積もることが、当別に来て一番驚いたことです。噂には聞いていましたが、想像を遥かに超えた量でした。でも、自宅のすぐ回りに豊かな自然があることや、道路や公園などが広いこと、これは北海道全体に当てはまりますが、もちろん当別の良いことだとも思います。

子 どもがもうすぐ生まれるので、今、いろいろと準備をしているところです。これから育児をしていく上で、楽しみなことが多くある半面、やや不安に感じている点もあります。当別町内で受診できない診療科目は町外の医療機関に行き診察を受けなければならないので、医療面がもう少し充実してくれると嬉しいですね。

こ れからは、人口が増えるとまちがもっと元気になると思います。私はこの町に来るまで、当別のことはぜんぜん知りませんでした。今は当別のことを知らない人たちに「当別は良いところだよ～」と教えたいと思っています。



自分の住むマチの長所に気付こう



中出 徳昭さん
昭和35年生まれ
当別町役場
樺戸町在住

バ イクで当別の町を最初に通ったのが高校生の時。その当時の印象は「なんてわかりづらい道路なんだろう」です。昭和54年、19歳の時に町役場に就職し、隣の石狩町(現:石狩市)から通勤していました。それから28年になります。役場に入って仕事を始めた当時にまず感じたことは、町中ほとんどの人が親戚のようなイメージでした。悪く言えばちょっとよそ者が溶け込むには時間がかかるような気がしました。

今は自分が当別に住んでいるからということもありますが、いろいろと経験をして来た中で、どのような町でも必ず良い所、悪い所があるということ。だからこそ自分の暮らす当別の長所には自然と気付くようになったと思います。

仕事 は最初が

国保年金。その後農林、企画の分野に携わり、現在は再び、国保年金の業務に就いています。今年の4からは後期高齢者医療制度がスタートします。制度が大きく変わるため、準備作業に追われています。



家庭 サービスや、中学校の頃からやっている卓球に関わって行きたいのですが、なかなか思うように時間が取れていないですね。体力面では、年齢を経ると若い頃とは違ってきますが、遊ぶのにも、仕事をするのにも、健康を大切にしたいですね。

子 年生まれの皆様、2008年最初の誌面へ登場をいただきました。

ご協力頂いた関係者の皆様、ありがとうございました。それぞれの世代から見た当別は「まあまあ」「がんばりましょう」

と、ちょっと辛口の採点も多かったですが、普段気付いていないような良い点もたくさん教えて頂くこともできました。

今年も「広報とうべつ」では、より多くの皆様の声をご紹介します。